

～みんなにやさしいまちに～  
さいたま市福祉のまちづくり  
モデル地区推進部会 活動報告書  
〈平成27年度〉



平成28年3月  
さいたま市福祉のまちづくり  
モ デ ル 地 区 推 進 部 会

＜目 次＞

I. モデル地区推進事業	1
II. 神田小学校での具体的活動内容	3
III. 参加者の声から	13

# I. モデル地区推進事業

## 1. 目的

○この事業は、平成16年3月に制定した「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に掲げる目的である「だれもが心豊かに暮らすことのできるユニバーサルデザインの都市の実現」のため、総合的かつ計画的に推進するための基本となる「福祉のまちづくり推進指針」を策定し、目的を達成するための一つの方策として、モデル地区を設定し、ハードとソフトが一体となった総合的な福祉のまちづくり活動を行うものです。

## 2. これまでのモデル地区推進事業

○平成18年度から平成21年度までについては、本市の交通バリアフリー基本構想の重点整備地区に指定されている浦和駅周辺地区・北浦和駅周辺地区・大宮駅周辺地区での活動を優先的に取り組んできました。

- 浦和駅西口地区 : 高砂小（平成18年度）
- 浦和駅東口地区 : 仲本小（平成19年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮小（平成20年度）
- 大宮駅西口地区 : 桜木小（平成21年度）

○平成22年度に福祉のまちづくり推進指針を改訂し、平成22年度から平成26年度（第2期）の期間については、モデル地区推進事業の対象を、交通バリアフリー基本構想にとらわれることなく柔軟に対応しました。

- さいたま新都心周辺 : 下落合小（平成23年度）
- 南浦和駅東口地区 : 大谷場中（平成24年度）
- 岩槻駅東口地区 : 岩槻中（平成25年度）
- 大宮駅東口地区 : 大宮北小（平成26年度）

○様々な地域における小中学校の協力のもと、年1回モデル地区推進事業を実施してまいりましたが、安定した参加者数を確保できない点が課題でした。そこで、第3期（平成27年度から平成31年度）については、地域の自治会、民生委員・児童委員、PTA、保護者、地区社会福祉協議会、NPO等に対して働きかけを強化し、よりモデル地区推進事業を拡大することで、地域ぐるみで福祉のまちづくりについて学び合う場を作ることを目指します。

## 3. 活動イメージ

○「広報・PR」、「市民参加の促進」、「施設整備の促進」をキーワードに、児童や保護者、地域の方々とともに、当事者との交流、障害等の体験学習、まち歩きによる点検、学び合いなどを行います。

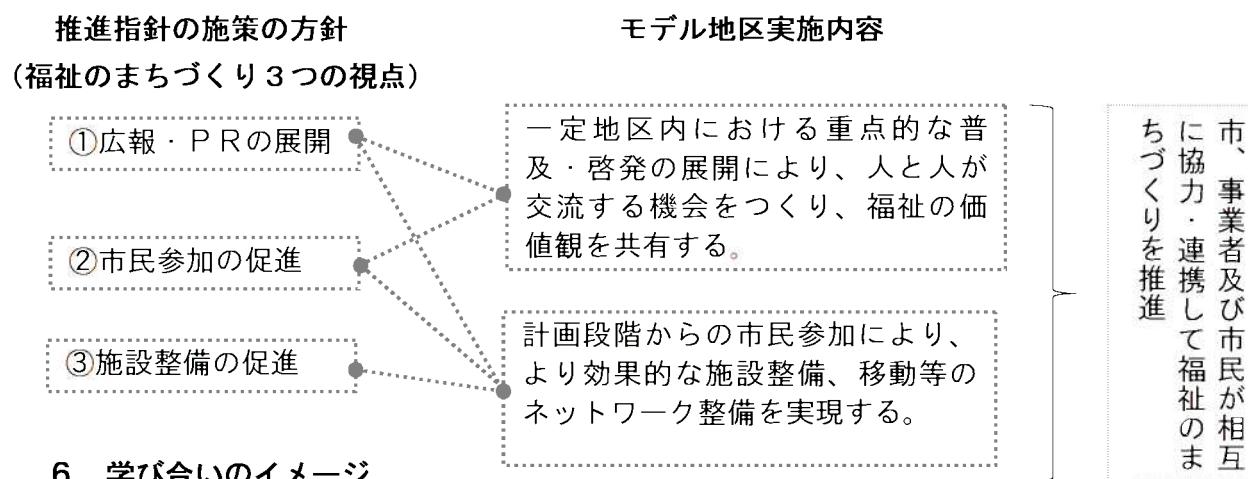
なお、小・中学校での学習は、各学校のスケジュールやカリキュラム等と連携して行っています。

## 4. 組織

○「さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会」は、「さいたま市福祉のまちづくり推進協議会」の中に設置された部会で、NPO、福祉関係団体、交通事業者、市民代表によって組織され、モデル地区推進事業を展開しています。

## 5 モデル地区推進事業の展開

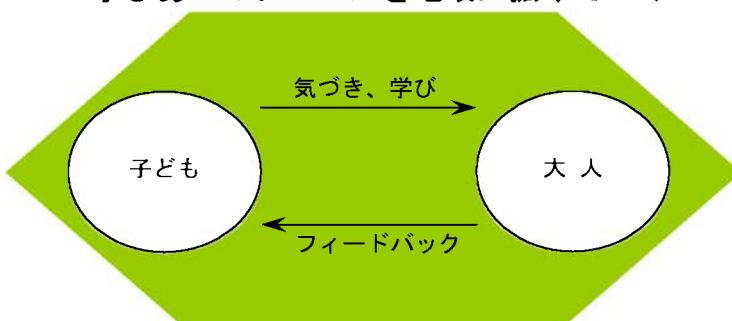
○地区内の学校と協力した福祉教育の展開、地区の現状調査やマップづくり活動、イベントと連携した福祉のまちづくりのPR等を実施します。



## 6 学び合いのイメージ

○子どもたちに福祉のまちづくりを伝えて気づきを促し、その豊かな感性から生まれるアイディアを大人たちに伝え、再び大人たちからのフィードバックを受け取るという学び合いのプロセスを実現し、一定期間継続することで、地域に拡がっていく活動を想定しています。

### 学びあいのプロセスを地域に拡げていく



## II. 具体的活動内容

モデル地区推進事業は、学校の総合的な学習の時間を利用して、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員をはじめ、障害のある方や市福祉関係団体等の協力を得て、福祉のまちづくりをともに学びあえる機会をつくり、地域に暮らす保護者や住民等に参加を呼びかけ、実施しています。

学校では、障害のある方や関係者等の方々からの聞き取り学習や、アイマスクや車いすを使用しての各種体験学習、まち歩き学習、学習発表会など多様で総合的な学び合いのなかで、「心のバリアフリー」に取り組んでいます。

平成27年度は、桜区にある神田小学校に協力をいただいて実施しました。

### 神田小学校での取組について

神田小学校では、4年生（3クラス：81名）を対象に実施しました。

#### （1）取組の概要

##### 【参加者】

さいたま市福祉まちづくり推進協議会委員の他、視覚・聴覚・知的の各障害者団体から選出された方、NPO団体、PTA、民生委員、地区社会福祉協議会、市社会福祉協議会、市社会福祉事業団が参加しました。

##### 【テーマ～みんなにやさしいまち神田～】

神田と新都心、バリアフリーの整備状況が異なる2つのまちを比較することで、「くらしやすい・やさしいまち」についてより深く実感し、自分達のまちに対してできることは何かを考えていきました。

##### 【実施計画】

過程	子ども達の活動	
ふれる	<u>ふれあい学習</u>	高齢者や障害者、バリアフリー等について知る。 ⇒課題決定
つかむ	<u>まち歩き学習</u>	どのようなところにバリアフリーがあるか。
	自分たちのまちについて考える	バリアフリーが必要な場所はどこか。 身近なところ（神田の町中や学校）に課題はないか。
	調べる1	自分たちの地域や町の中の問題点を見つける。 障害を持つ人について詳しく調べる。

深める	新都心見学	ユニバーサルデザインやバリアフリーで身近な地域の見学や歩行体験を行い、課題を追及する。
	調べる2 (見学後)	障害を持つ人のよりよい生活の仕方を考える。 街中の施設や店、駅、道路等にされている工夫などを調べる。
	自己学習	バリアフリーやユニバーサルデザインについて調べる。
まとめる	『みんなにやさしいまちプラン』 を考える	多くの人々（便利・住みやすい・安心）と思う町にする方法を考える。 ⇒調べた場所の様子や自分なりの考え、アイデアなどをまとめること。
	自己学習	人にやさしい町にするために、自分にできることを考える。 ⇒声をかけること、手伝ったり手を貸したりすること、マナーを守ること。 偏見や差別をしないこと、知らない人にも教えること、正しく使うこと。
	学習発表会	学習を通じて感じたことを交流しあい、自分ができそうなことに取り組んでいく意欲を高める。



## (2) ふれあい学習

平成27年9月17日、神田小学校 各教室・体育館等

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等、計110名

### 内 容

#### 【目的】

- ・当事者の方々と直接ふれあうことで、障害等について興味をもち、その特性を理解する。

#### 【ねらい】

- ・自分と異なる感覚や暮らしの方法があることを、交流を通じて理解する。
- ・疑似体験により暮らしの中で何がバリアなのか知る。

#### 【活動内容】

- ①当事者等が自身についての話をし、自分達の生活や想いを児童に伝えた。
- ②各体験等の学習を通してそれぞれの特性について、児童の理解や興味を促がした。また、当事者が普段使用している道具に触れることで、児童の興味をさらに引き付け、生活についてイメージできるきっかけにした。  
⇒児童が普段なかなか出会ったり関わったりしないような方達との交流により、当事者について考えたり、気づいたりできる「きっかけ」になった。



	学習内容	学習の様子
視覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイマスクと白杖を身に付けて校内で視覚障害の体験をするとともに、介助の方法や細かな声掛けが大切と学んだ。</li> <li>・点字機、音声式携帯電話等の生活に関連するものや、触って分かるオセロ等遊び道具を紹介し、児童の興味を引いた。</li> </ul>	
聴覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童と講師が、手話でのあいさつや自己紹介により楽しみながら交流をした。</li> <li>・チャイムを押すと振動で来客を知らせる器具使って、普段の生活についても紹介した。</li> </ul>	
知的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イラストボードを用いて、知的障害について理解を深める話をした。</li> <li>・ジェスチャーでもコミュニケーションが取れること、パニック等になったときには「やさしい無視」で見守ってほしいこと等、知的障害の子どもがいる親としての想いを伝えた。</li> </ul>	
車いす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害者は可哀想、大変」というイメージを、「面白可笑しいクイズ」や「電動車いすサッカーの元日本代表候補者によるシュートなどを披露」等を通じて変えていった。</li> <li>・二人一組になり車いすと介助者を体験したり、電動車いすも体験したりした。</li> </ul>	
高齢	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の身体状況や認知症について話すことでまずは理解を促がした。</li> <li>・さらに高齢者疑似体験グッズを身に付け、高齢者の身体状態で日常動作を体験することで、どのように接したらよいのか、実感しながら学んだ。</li> </ul>	

### (3) まち歩き（歩きなれた道へのギャップ・気づき）

平成27年10月7日、神田小学校周辺

参加者：児童、保護者、障害者団体等、計120名

#### 内 容

##### 【目的】

- ・障害等の体験により歩きなれた道について視点を変えることでギャップを実感する。
- ・当事者の方と交流しながら歩き、その方たちがどのように感じているのか知る。  
⇒自分のまちを暮らしやすくするにはどうすればいいのか、考えるきっかけ、気づきを促がす。

##### 【ねらい】

- ・実際にまちを歩くことで、自分たちのまちのバリアやバリアフリーについて理解する。
- ・一人ひとりの能力がハンデの原因ではなく、環境（バリア）が、ハンデを生むことに気づく。



### 【活動内容】

#### 学校周辺のまち歩き

グループに分かれて、子ども、当事者、地域の方と共に歩き、まちを歩く上での不便さを質問したり、疑似体験グッズを使用したりすることで、歩き慣れた道におけるバリア等について、多くの気づきを得られた。



#### グループミーティング

まちを歩いてみて感じたこと、考えたことを意見交換して情報共有することで、そこから派生する話題などで参加者がさまざまな話を展開した。

- 見て、体験して感じたことや課題を共有することができた。
- 児童、保護者、当事者が入ったグループを組み、少人数における、交流の機会をコミュニケーションが図れた。



#### 一緒に給食

学習後、児童と講師が一緒に給食を食べながらより密接な交流を行った。

講師の食事の介助をした児童が、喜んでいる様子が見られるなど、心のバリアがなくなっていた。



#### (4) まち歩き（バリアフリーが進んだまちとは）

平成27年11月7日、さいたま新都心駅　けやき広場等

参加者：児童、保護者、障害者団体等、計103名

#### 内 容

##### 【目的】

さいたま新都心駅周辺を見学し、バリアフリーが整備されている状況を実感することで、「自分たちのまちには何が必要なのか」考えるきっかけとする。

##### 【ねらい】

バリアフリーにより、障害者や高齢者等がなぜ暮らしやすくなるのか実感する。

##### 【活動内容】

さいたま新都心駅のけやき広場や2階デッキを中心に、「みんなにとって便利なところ（バリアフリー）」を講師と一緒にになって探した。また、移動の際の道や電車・バスについてのバリアフリーも探した。

##### 【効果】

多くの児童は、これまでさいたま新都心駅周辺を訪れてもバリアフリーを考えて歩いていなかった。普段は気がつかない、配慮されたこと・場所がたくさんあるとについて児童が気付くことができた。

その後、『みんなにやさしいまちプラン』について自己学習する際、本やネットの知識だけに頼るのではなく、バリアフリー化が進んださいたま新都心駅周辺を歩いた経験をもとに、各児童が自分の考え・答えを見つけることができた。



## (5) 学習発表会

平成28年3月4日、神田小学校 体育館

参加者：児童、保護者、地域の方、障害者団体等、計169名

### 内 容

#### 【目的】

子どもと大人との学び合いにより、自分たちのまちを「誰にとっても住みよいまち」にするためにはどうすればいいのか、考え、行動していく、という福祉のまちづくりを地域に拡げていく。

#### 【ねらい】

児童の豊かな感性から生まれるアイデアや気づき、子どもだから言える素直な意見を大人たちに伝える。

⇒大人たちに考え方かなかった発見や、自分たちのまちについて改めて見直すきっかけをつくる。

#### 【活動内容】

- ・これまでの体験をもとに、神田のまちがどうなったら住みやすいかを考えた。  
⇒「〇〇にとって、どんな面が便利な・住みやすい神田のまち」をテーマに、各児童が学習結果をまとめ、「みんなにやさしいまち神田」プランを作成した。
- ・地域関係者、まち歩きに参加した障害者の方々、保護者などが、各児童の発表を参観し、発表後の質疑応答等により、発表した児童との意見交換が行われた。

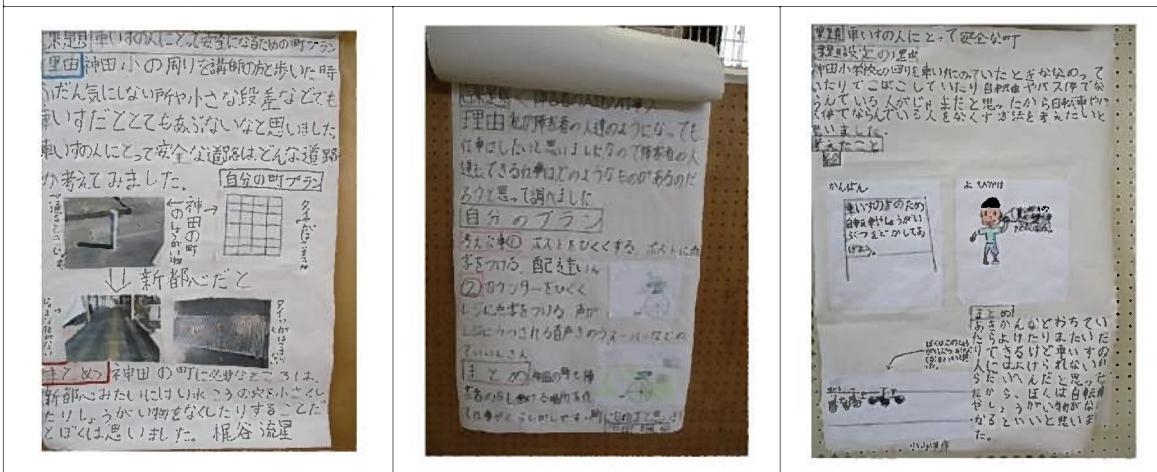
#### 【効果】

- ・体験等の経験をもとにして、児童が自分としての考えを発表したことにより、大人たちが自分のまちに対する気づきを共感できた。
  - ・バリアの解消という住みやすさ、生活のしやすさの視点のみならず、さらに「障害のある方にも楽しんでもらいたい」という意識が芽生えた。
  - ・「自分の考えを伝えることができてうれしかった」と感想を述べた児童もいた。学び合いにより、自分のまちについて考えて伝えることについて児童の意欲が高まったとともに、力が身についたように思われる。
  - ・事業実施後の児童の様子について、先生にヒアリング調査を行った。児童の変化としては、身のまわりにあるについて、これまで気にしていなかった、気づかなかったことに目が行くようになった。駅、バス、学校等で見つけたこと、気付いたことを伝えるようにもなった。
- また、車いす学習の講師であるNPOの方が同じ地域に暮らしており、これまで見かけても声をかけることができなかつた児童が、今回を機に交流するようになった。

発表の様子 緊張しながらも、神田のまちをくらしやするための考えを大人たちに伝えた



発表資料 体験をおして児童が調べえた「みんなにやさしいまち神田」のプラン



## (6) 今後の活動について（学びあいのプロセスを地域に拡げていくために）

### 【平成27年度の事業を終えて】

神田小学校では、保護者や地域の方が多く参加したことにより事業を周知できた。地域の方や保護者からも、継続的に事業が実施されることを望む声が多かった。今後は、学校が主体になって事業を継続的に実施できるよう仕組みが必要になる。

### 【仕組みのポイント】

#### ○地域の方や保護者等 大人の体験学習等への参加

⇒今回は児童が体験学習等に取組み、大人は見学するという傾向であった。

そのため、大人も体験学習等に参加することを促す仕組みが必要になる。

児童への福祉教育だけではなく、大人も参加した地域での学び合いであると伝えていくことで、体験学習等において活発な学び合いができるようにする。

⇒「活発な学び合い」が地域に周知され、大人の参加が増えることで、地域ぐるみで福祉のまちづくりが考えられ、取り組まれることを目指す。

#### ○当事者との継続的な交流

⇒「みんなにやさしいまち神田」のプランは、本やネットの知識だけに頼るのではなく、実体験に基づく自分の考えを伝えることで、より大きな共感が得られる。

そのためには、当事者との交流が重要であるため、今回講師を務めたさいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会委員やNPO等の協力が必要になる。

### 【さいたま市福祉のまちづくり推進協議会委員からの意見】

今回実施された「体験学習やまち歩き学習」は、モデル地区推進事業の一環として行われたものであり、「福祉のまちづくり」のための具体的な施策を進めるためのものであると理解しています。

この点から、児童たちの提案したものの中から、効果的でありかつ実現性にも優れているアイデアを「施策として実現」してはどうでしょうか。児童が「まちづくり」に実際に参加することにより、教育的効果をより高めることができると考えます。またこの時、次の3点が重要なポイントと考えます。

○児童のアイデア、創意工夫を活かすとともに、主体的な行動を尊重し、教育的な効果を高めること

○地域との協議など、地域と連携した施策実現へのプロセスが重要であること

○体験学習から施策実現に至るプロセスを検証し、他地域への応用性などを高めるとともに、これらを「福祉のまちづくりの良い事例」として広めること

### 【教職員への支援】

本事業が継続的に実施されるためには学校主体での活動が必要になる。それにはまず、教職員が中心となって取り組むことになる。そのため、教職員が課題を抱えたときには、さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会や関係団体と連携して支援をしていく。

## 参加者の声から

### 平成27年9月17日 ふれあい学習 参加者アンケート（抜粋）

#### I 【問】今回の授業（ふれあい学習）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・もっと大勢の方に声掛けすれば良かった。
- ・子ども達に体験授業を通して、高齢者を大事にする心を養うことが大切であることを学ばれた。
- ・今まで体験したことが無いので、この期に各学校でも体験してほしい。子ども達にも良いことであり、家庭に帰りお話をすることができる、お母さん、お父さんにも良いことだと思います。私も知的障害者のことがよく理解できませんでした。こんな色々なことに苦しんでいたこと、自分が恥ずかしく思いました。これから良いまちづくりになるよう願っています。
- ・私は「聴覚障害」と「知的障害」のふれあい学習に参加しました。知的障害者をもつ保護者の方から「障害の種類と程度は個人個人により千差万別」との発言がありましたが、障害者の一人ひとりのニーズにきめ細かく対応させるためには福祉のまちづくりにおける《ソフト施策》が極めて有効であることは論を持たないと思います。児童を対象とした福祉のまちづくりへの教育プログラムは重要であり、継続的かつ広範に実施すべきであると思います。
- ・先生も児童も前向きに取り組んでいただき、非常にうれしく感じた。体験にあたって、ペアで組んでの児童のやさしさ（言葉）等を感じ、ほほえむ一面もあった。
- ・子ども達も普段の生活では体験できないであろう貴重な体験ができ、きっと心の変化というものがあったのではないかと思います。いつ自分がこういった障害をもつかもしれないという気持ちをもちながら、今の自分に何ができるか、手を差し伸べる気持ちが持てるようになってほしいと感じました。
- ・子ども達が普段なかなか会ったり関わったりしないような、生活にハンデを持った方々のお話を実際に聞き、体験し、自分達とは違った生活があることを知るとてもいい機会になったと思いました。私もいい勉強になりました。
- ・障害をもつ子供のお母さん方の話を聞きました。知的障害はとても大きなグループでなかなか理解が難しそうでした。お母さん方が教えてくださった色々なポイントを知ること、それを実践することから始めていくことが大切だと思いました。自分にできることを考えてみようと思いました。
- ・やさしい無視ということを知的障害のお話で聞きましたが、これまで、そういう場面にあったとき、何をしたらいいか、何かしてあげられないかと思っていましたが、そうではないことが分かりました。
- ・実際に子供達にやらせてみると、理解を早めると思いました。特に車いすなどの動かし方は、やってみて初めて難しさが理解できたと思います。

#### II 【問】児童の気づきや言葉で印象に残っていることがありましたらお聞かせ下さい

- ・バリアの持っている姿を大変熱心によく観察していたところがよかったです。
- ・高齢者体験グッズを着替えにくそうにしているパートナーに手を貸して手伝っているお子さんがいました。自然に手を貸せることに感心しました。
- ・児童は騒いだり、よそ見をしたりすることなく真摯な態度で学習していました。この点は好印象を持ちました。少し質問が少なかった感があります。もっと簡単な質問でも自由に聞くことができればいいのにとの印象を持ちました。
- ・講師からの5つの質問で、視覚障害者で大切な中の触覚がわかった児童がおり感心しました。色々な行動に真っす

ぐに取組んでいただき、授業はやりやすく感じました。

- ・手話はその物の形からできていること、名前なども一つひとつ手話があり、実際に体験できて楽しそうでした。視覚の目隠しと白杖の体験では、階段が特に怖そうにしていました。ただ知識があるのと、実際に体験するのとでは違うと思いました。
- ・視覚障害の方のために、色々なものが色々な工夫をしてあるということを知った時、関心を示したように思えました。きっと身のまわりのものから、そういうもののを探してみるのではないかでしょうか。
- ・疑似体験は子供たちにとっては初めてなので「えー?」「おー」といった驚きの声が何度もあがつたのが印象的でした。
- ・電動車いす体験などもふざけることなく、ちゃんと体験していました。知的障害の方の「やさしい無視」「やさしく見守る」というお話を子供達ちゃんと受け止めているように思いました。
- ・高齢者の身体状態を体験した時、とても動きづらかったと言っていたので、普段、祖父母に思いやりを示すよう教えてもなかなか理解に至りませんが、言葉で教えるより説得力のある仕方で子どもの心に刻まれたように思います。子どもも前日から楽しみにしていたので、子どもの好奇心をも満たす刺激的な学習の機会にもなったようです。

### III 【問】次年に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

- ・体験したことを恒日頃、家庭でも行動されるために、継続的に学習されることを望みます。
- ・親も参加できる体験学習なんかがあるといいと思います。
- ・私はソフト施策の重要性を認識していますが、ハード施策に比べて「継続性」や「目に見える形で残らない」などの点で問題があると思います。今まさに、有効な《ソフト施策》をどのような形で実施していくか、行政を含めて知恵の絞りどころであると考えます。このとき、以下の点がポイントと考えます。①より具体的かつ継続的な施策の実現に向けての道筋・方向性を打ち出すべきであること、②施策は地域コミュニティを核としながら、その連携を強めるべき施策であること、③これらの施策を展開する前にモデル地区でパイロット的に検証すること、などです。
- ・知的、耳、目、高齢、これから手助けできる方にもたくさん見て、聞いてもらえるように自治会の展示もしていきたい。呼びかけたい。
- ・一人の子供が全てをまわるのは、とてももったいないと思いました。
- ・体験してみての感想等を発表することができると、皆で共有できていいかと思いますが、時間が足りないかなと思います。
- ・疑似体験は大変インパクトがあるので、今後も継続することが望ましいと思います。
- ・視覚障害のお話の中で「醤油やドレッシングなどの調味料にも、視覚障害の人に中身がわかるようになっているものもあるので、お家でも探してみてください」というお話があったので、家で探してみたのですが、家にそういうものがないのか、自分がその印をわからなかっただけなのか、見つけることができませんでした。実際に印がついているものをまわして見せていただけると、家でも探せたかもしれないと思いました。
- ・知的の講師のお話がとても心に残りました。とてもお子さんに愛情を持っていらっしゃることが伝わりました。ジェスチャーで慣れてくるとお子さんの言いたいことが伝わること、慣れない方だとパニックになってしまうこと。パニックになったときは、おさまるまで温かい目で見守ってほしいということ、子どもたちにもっと伝わるといいなと思いました。他のコーナーに対して体験が無いので、言葉を使わないでジェスチャーで伝えることの難しさなどを体験できると、より理解が深まるかもと思いました。

## 平成27年10月7日 まち歩き学習 参加者アンケート（抜粋）

### I 【問】今回の授業（まち歩き）に参加してのご感想をお聞かせください

- ・2回目の参加ですが、今回もすごく気がついたことが多かったです。神田地区は車が多いために歩道が狭さや電信柱の多さ、そのために車道を歩くことになったり、ゴミが合つたりともう少し住みやすい町になるといいです。
- ・まち歩きの現場が日常的に車で通っているところなので、「まち歩きで何を点検するの？」という感じでした。しかし、いざ車いすで走ってみると、傾斜や段差、電柱やポール等、問題点が色々見えてきました。あらためて、まち歩き点検活動の大切さを考えさせられました。
- ・車いすを押しながら町を歩くと、不便なことがたくさんありました。講師の方々がとても明るく、一生懸命子供たちの質問に答えてくださったのが印象的です。介助者の人が、みんなで声をかけて介助していけたらいいですね。
- ・今回は大人も重りをつけさせてもらい、ゴーグルもつけさせてもらったので、実際に足や手が動かしづらい感覚や見えにくい中、歩くことの大変さを体験できてよかったです。
- ・普段なにげなく通っている道でも、車いすの方は大変だということがわかりました。知っている道でも段差がある、ないなど、気にして見ていないとわからない場所がたくさんありました。車いすの方が、どんなところが大変なのか、気をつけたらよいかを教えていただけて良かったです。
- ・先日のふれあい学習で、視覚障害グループに参加して、普段気づかない難しさを学んだので、今回も視覚障害のまち歩きに同行しました。実際に体験してみて、安全に歩くことの難しさを改めて実感しました。

### II 【問】児童の気づきや言葉で印象に残っているものがありましたらお聞かせください

- ・ミーティングでは積極的に質問していて感心しました。
- ・車いすでは、自販機の高さが高すぎて、お金を入れたりボタンを押したりできない。登り坂がそんなに急でなくとも押すのに力がいる。道路がでこぼこしていて、子どもたちの体がガタガタしていました。車とそれ違うときに、高さが低いので怖く感じました。
- ・子どもが率先して「何かお手伝いすることはありますか」と指導員に聞き、介助者を自らから出ていました。すばらしいと思いました。
- ・ゴーグルや重りをつけて、「見えにくい、重い」とみんなが言っていました。大きな字でも見えづらかったり、自販機もなんだかわからないと言っていたのに驚きました。
- ・空き缶が落ちていた時に、普段は気がつかなくても、目が不自由な中では障害物になってしまふことに気づけたことが良かったです。
- ・道路を渡るときに、前に出て「車が通っている」「自転車くるよ」と声掛けをしているところ。一人で介助できない道などは、協力して車いすを押していたところ。
- ・実際に車いすに乗っている方から「神での町は道は細いし動きづらい」とお言葉をいただいて、本当にその通りだと思いました。「車いすは体の一部だから」というお言葉も印象に残りました。
- ・子ども達が車いすに乗っているときに、介助者がしっかりしていないと乗っている方も怖いし、介助者の方も操作がとても難しいと言っていました。とてもいい気づきだと思います。
- ・歩道にある（真ん中）ポールも障害物だと言う児童がいた。小さな坂でも車いすのハンドル操作が難しいと言っていた。

・不慣れなせいか、ガイド役からの声かけが、はじめは少なくてひやひやしましたが、だんだんスムーズに歩けるようになりました。子どもたち同士の会話を聴いていると「目の不自由な人の気持ちになる」ことの難しさに十分気付いたことが分かりました。やはり体験することはとても大切だと思いました。

### III 【問】次年度に向けての問題や課題、改善した方がいいと思ったことがありましたら、お聞かせください

・まち歩きの時間が少ないため、問題がある場所で、子ども達と内容の確認がしたかったが、その時間がとれなかつた。また、講師役の障害者が、どのグループの子供たちと一緒に歩くか、分かりにくかつた。

・車いすを押しづらくなるので、グループ内で体験者を抜かさないというルールを作るといいと思います。ぶつかつてしまったり、狭いところで待っていると危なかつたりすると思うことがありました。せっかく講師の方がいらっしゃるので、インタビューの子は、講師の近くを歩いて質問するのもいいと思います。

・歩道がきちんとされていない場所がたくさんあり、もっと誰にとってもくらしやすい街づくりをしていかなければならぬと思います。また、車や自転車がスピードを出しすぎないように、わざと道をでこぼこさせている場所がありますが、障害者さんにとっては、とても通りにくいと思いました。

・一人ひとりの役割の順番がみんなよく分かっていないくて、交代のたびにごたごたしていたので、「あなたは①が体験、②は…」と一人ひとりに書いてあげた方が、当日この取組に集中できるんじゃないかと思いました。

・とてもいい体験だと思うので、続けていくことが大事だと思います。そうすることで自然に助け合う気持ちが育っていくと思います。これからもよろしくお願いします。

・児童の役割を決めることで、参加児童全員がいろいろな体験が出来たことをとてもよかったです。

・子ども同士の声掛けがもう少し必要かと思いました。せっかくグループ別に分けてあるので、もったいないと思います。

## 平成28年3月4日 学習発表会 参加者アンケート（抜粋）

I 本日の神田小学校4年生の学習発表会は、モデル地区推進事業と連携して行われています。この学習発表会に参加してのご感想、児童の言葉や発表内容で印象に残っているものがあれば、お聞かせください。

- ・児童の皆さんのが体験を通して学んだことを一生懸命まとめていることがとても伝わってきました。絵や図を使って発表してくれたので、わかりやすかったです。「注意→注意」このように大きく表示すると見やすいというように、現在の課題と自分の考え、改善案が出ていたのは面白いと思いました。
- ・視覚聴覚障害の方たちと一緒に道路を歩くなど大変貴重な経験をなされたと思います。また、その結果として、「道路の信号機や側溝の穴が大きすぎるなど、普段では当たり前のこと�이人によっては、何の役に立っていないことに気がついた」という言葉が印象的です。そして音楽の奏でる信号機、穴の小さい側溝を提案されていました。そのとおりだと思います。このような経験は何度もすることによって、相手の気持ちが理解できるようになるものだと思います。多くの機会を提供してあげてください。
- ・まち歩き学習の成果、新都心に行っての学習などで、子ども達の学習が随分と深まったように感じました。一人ひとりが自分のことばで話してくださったのがよかったです。まち歩き→バリアの解消という視点のみならず、さらに障害のある方にも楽しんでもらいたいという意識が芽生えたものがあったことは、この学習の成果であったと思います。
- ・車いすの方が公園で遊べる遊具を考えた子がいて、住みやすさ、生活のしやすさ以上の楽しみを考え出していく、すばらしい気づきだと思いました。
- ・子ども達なりに、今までの生活にあまり縁のなかった「福祉」というものに真剣に取り組んだ様子を見ることができて感動しました。また、聴覚障害の方から、直接実生活についてのお話を伺えて、初めて知ったことも沢山あり勉強になりました。
- ・子ども達なりに多くのことに気づき、考えることができた良い機会だったと思います。障害を持った方や介助の方と直接お話ができるとはなかなかないと思います。気持ちがまっすぐなこの時期に素直に受けとめ、素直に考え、アイデアを出している姿はとてもすてきでした。
- ・発表を聞いて、ふれあい学習やまち歩き学習で多くのことに気づき、経験したことが分かりました。特に「音の出るもの増やす」「自転車対策」等は、子ども達の視線を反映したアイデアだと感じました。
- ・超高齢化社会に向けて、交通整備の大切さ、障害者の方々が困っているときは、声をかけ助け合っていく大切さを皆さん気づいて発表していました。
- ・普段何気なく生活しているまちでも、実際に障害者の方の立場になって考えてみると、住みにくいと思うところがたくさんあり、子ども達が自分たちでそれを考え、改善点を見つけ、どんなまちにしていきたいのか、それぞれの児童がよくまとめて発表できていました。
- ・子ども達が、この学習を通してお年寄りや障害者の方たちに対する思いやりや気づかう気持ちが増したように思います。普段街中でも点字を探したり、「もっとこうしたらいいのに」と気づくようになりました。
- ・発表のための資料作りは大変丁寧に作られていました。きっとまちづくりにも真剣に考えてくれたのでしょう。ただ、それを発表するのに自信がなさそうでした。これからも堂々と自分の意見を言えるようになるといいなと思いました。
- ・子ども達の意見をこれからまちづくりに役立させていただけると、もっと良い神田地区になると思いました。すごくわかりやすく良かったです。

- ・講師の方々への感謝の言葉は大変心がこもっていて、聞いていて気持ちが良かったです。10歳の目で、心で感じたことをいつまでも忘れずにいてほしいと願わずにはおれません。この学習をいいきっかけとして、自分とは違う人、考えのことを思やる気持ち、小さなことも気づく完成を磨いてほしいと思いました。
- ・「みんなにやさしいまちプラン」の学習に対して、各方面色々な方たちが協力してくださっているのだなあと思いました。子ども達は“ふれあい学習”“まち歩き体験”を通し、しっかりと模造紙に自分の考えた「まちプラン」が書けていて、きちんとした発表ができていたと思います。
- ・色々なまちプランをそれぞれがしっかり考えられていて、とても素晴らしいです。「すぐに改善できない場合でも、困っている方を見かけた場合にどうしたいか」という質問に、みんなが「何に困っているのか聞く、力を貸す」など、自分にできることから助けたいと思っており、優しさに感動した。
- ・私たち大人でも気づかない点が、今回の発表で色々わかりました。
- ・普段の生活の中では知らないことが、この取組によって、たくさんのこと学び、考え、自分なりに理解ができたと思います。とてもよい発表会でした。
- ・確かに、駅の近くの町では、歩道が広かつたり住みやすくなっているけど、駅から離れた所では、障害のあるかたには住みやすい環境ではないのかなと、発表を聞いて感じました。障害のあるかただけではなく、子ども、全ての人たちに趣味やすい、安全なまちが増えていくといいなと思いました。
- ・とても良い取り組みで感動しました。市内の小学校で順次取り組んでほしいと思います。福祉に対する思想や考え方を小さいうちから考えてほしいと思います。小4という設定もいいと思います。

## II 本日の学習発表会及びこれまでの神田小学校での一連のモデル地区推進事業（体験学習やまち歩き学習）に参加され、お気づきの点や次年度への問題・課題、改善したほうがいいと思われたことがありましたら、お聞かせください。

- ・私個人としては、発表の準備や下調べ等より、もっと当事者（講師）と触れ合う時間を増やして、よりリアルに感じて、わかってもらい、「自分がなつたら」「隣人として」引き付けて考えられればと思いました。
- ・学習発表が一斉発表ではなく、各グループ一つひとつの発表を皆さんに聞いてほしかったと思う。時間的な問題があると思うがもったいないと感じる。皆さんの立派な発表に本当に良かった。
- ・なかなか機会を供与（当事者や講師との協力のもとに）することはなかなか困難だと思いますが、より多くの学校で取組みが広まればいいと思います。それには学校全体 教員の方の理解と意欲も前提になると思います。神田小については、地域の方、保護者の方の参加も多く、今回の学習の実施については、実施するにふさわしい地域であったのかを感じました。
- ・発表の声が少し小さくて、他のグループの発表も隣でやっていたので聞きづらかったのが残念でした。
- ・せっかく多くの気づき、経験したわけなので、それだけに終わらせず、今後ボランティア等の具体的活動に結びついていけばいいなあと思いました。
- ・子どもの目で見てもらうと、大人の気づかない点がすごい。
- ・子ども達が積極的に学ぼうとしている感じました。せっかくの学習発表会、限られた短い時間で、もっと多くの子供たちの発表を聞きたかったです。保護者の方対象の授業参観だったとすれば、参加する側の私にも、もっと工夫が必要だと反省しています。
- ・このように最後に、まとめの発表を参観のようにするのならば、なるべく多くの保護者の体験の時点で参加があつた方が、発表の内容がよくわかるのだろうなと思いました。
- ・子ども達が描く素敵なまちづくりを、もっと明確な形で市や行政に対して要望書として提出していただきたいです。

また、自分達に何ができるか、例えば、自転車に乗るとき、スピードを出し過ぎたりすることが、お年寄りには危険だからやらないようにする等、普段の生活に活かせる意見をもっと聞きたかったです。

- ・障害者の方は特別ではないという指導もされたことが、伝わってくると良かったです。
- ・子ども達自身の考えた案がたくさんでていたことが、印象に残りました。
- ・まち歩き学習のときや体験の時に、カメラを持参して記録できると、より発表がしやすくなるかと思いました。
- ・何度か参加させていただきましたが、子ども達がもう少し目標をしっかりとらえて参加できればよかったです(漠然とあるいている子ども達が多かったと思います)。
- ・子ども達の目線で考えたまちプランはとてもすばらしく、ぜひ行政の方々にも聞いていただきたいと思います。今後とも、共存しながら福祉の芽が育つよう、この授業を続けてほしいです。

発 行

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6-4-4

さいたま市保健福祉局福祉部福祉総務課

電話 048-829-1254

FAX 048-829-1961